

令和5年5月 教育委員会定例会議事録

- | | | | |
|----------|------------------|------------|-------|
| 1. 日 時 | 令和5年5月29日（月） | 午後2時00分 開会 | |
| | | 午後3時20分 閉会 | |
| 2. 件 名 | 河南町教育委員会定例会 | | |
| 3. 開催場所 | 河南町役場 庁舎4階 大会議室北 | | |
| 4. 出席委員 | 教 育 長 | 中川 修 | |
| | 教育長職務代理者 | 西川 幹雄 | |
| | 委 員 | 高井 美恵子 | |
| | 委 員 | 杉田 みはる | |
| 5. 欠席委員 | 委 員 | 藤原 充 | |
| 6. 事務局職員 | 教・育部長 | | 谷 道広 |
| | 教・育部副理事兼指導主事 | | 内山 裕生 |
| | 教育課長 | | 藤井 康裕 |
| | こども1ばん課長 | | 山田 恵 |
| | 生涯まなぶ課長 | | 森 弘樹 |
| | 給食センター所長 | | 浅井 明郎 |
| | 教育課長補佐兼指導主事 | | 柏木 俊介 |
| | | | |

(審議内容)

教育長	<p>先週と今日と、皆さん方には、学校園の現場の実際の様子をご視察いただいて、いい機会になったと思っています。それぞれの視点で見ていただいて、様々お気づきの点もあったと思いますし、直に園長先生や校長先生のお話も聞く機会があって、今まで授業を見たりということで行っていただくことはあったかもしれないけれど、そうじゃない部分の中でフランクな視点で見ていただくこともできたのかなと。</p> <p>その中でお気づきの点が当然あったと思いますし、それは、これからの河南町の教育・保育をいい方向にということで、例えば、こういう場でも、意見交流ができて、また進めていけるようなことがあれば、行った甲斐があると思っています。ありがとうございます。</p> <p>もう一つ、実は、5月に入って、今まで制限がかかっていた活動が、ほぼできるようになってきてます。</p> <p>そうすると、やっぱり今まで2、3年できてなかった中でやることのメリットと、改めて気をつけなければならない部分が、クローズアップされてきている。</p> <p>この間、大きな話になりますけど、例えば、ウクライナの情勢。これはもう2年目に入ってしまう。入ってしまうなんて、本当は、言いたくないような話であり、早く収まってほしいと思うのですが、「戦争というのは人権の最たる侵害行為である。」と言っている、実際の、この地球で起きているということ。</p> <p>それから、ご存知のように、広島でG7サミットが行われ、核に関わる話も争点になってます。</p> <p>でも、それについては、様々なご意見もあります。アピールできた、広島で開催できたということは、それは本当に意味のあることだとは思いますが、そ</p>
-----	--

こでの声明であったり、そこで話し合われたことについては賛否両論がある。というようなことも踏まえて、やはりその根底にあるのは人権ということかなと思います。

町の方でも、人権をまもる会の総会がありまして、そこでも、今、お話させていただいたようなことは、会長、あるいは、町長も話題には触れて、みんなですらやっぱり確認していこう。その中で、この河南町での日々の生活の中でも人権に関わることは、常に、自分の中でアップデートしていかなければならない。もう十分身についたから、自分はもう人権については大丈夫、なんて言える人、たぶん一人もいないと思うんですね。

新たな人権問題は、本当にどんどん出てきているので、日々、自分の中でアップデートしていくという意識がまず大事であるということは、改めて感じましたので、今まで人権については様々お話もさせていただきましたけれど、やはりこのメンバーでそういったことをもう一回、再度確認するという、と同時に、学校園の方についても、定例会がありますので、常に発信していこうと思っています。

今日もいくつかの報告があります。また、様々忌憚のないご意見をいただきながら、有意義な時間にしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

それでは、ただ今より令和5年5月の教育委員会定例会を開催します。

まず初めに、本日の定例会については傍聴の申し出はございませんでした。

本日の出席者は、4名です。定足数を満たしていますことをご報告いたします。

次に、会議録署名委員は、河南町教育委員会会議規則第17条の規定により、西川委員に決定してよろしいでしょうか。

委員全員

——— 異議なしの声あり ———

ご異議がないようですので、会議録署名委員は、西川委員に決定いたしました。よろしくお願い致します。

それでは、「第2. 諸報告、その他について」に進めさせていただきます。

まずは、「(1) 5類感染症への移行後の学校における新型コロナウイルス感染症対策およびその対応について」を事務局から説明をお願いします。

事務局

「(1) 5類感染症への移行後の学校における新型コロナウイルス感染症対策およびその対応について」

資料に基づき説明

教育長	<p>今、事務局の説明が終わりましたが、この件について何かご質問とか確認しておきたいことありますか。</p> <p>よろしいですか。ないようですので、次に、「(2) 中学生文化体験型研修について」を事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>「(2) 中学生文化体験型研修について」 資料に基づき説明</p>
教育長	<p>今、この件について事務局から説明が終わりましたが何かご質問等、特にありませんか。</p>
委員	<p>今後、町のホームページとかにもより詳しいものが載ったりしますか。</p>
事務局	<p>今載せております。</p>
教育長	<p>ぜひ参加者を募りたいので、今年については、今、課長からもありましたけど、中学校の校長先生にお願いしてね、全校集会の場で、5分ぐらいですけど、担当が行って話をさせてもらうということをしました。</p> <p>資料については、後日、みんなが誰でも見れるように、ホームページとか、町のホームページの方にもアップして、皆平等にという視点は持っておきたいと思います。</p> <p>とにかく 20 人の定員ですが、できたらそれを超えるぐらいの応募を期待して、担当課が臨んでくれます。</p> <p>また、皆さんからも広めていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>次に、「(3) その他」になりますが、その他について事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>生涯まなぶ課から、日程の報告、2点になります。</p> <p>まず、ぷくぷくサンデーコンサートでございます。</p> <p>大阪芸大の演奏学科と河南中の吹奏楽部との共催コンサートでございますが、今年は7月9日(日)午後2時からの開演で考えております。</p> <p>あともう1点、イングリッシュキャンプでございます。</p> <p>こちらの方は、夏休み期間中、小学校の高学年と中学1年生を対象に1泊2日で府立少年自然の家で実施する予定でございます。</p> <p>8月17日(木)、18日(金)の1泊2日で実施予定でございますので、日程のご報告だけさせていただきます。</p> <p>詳細は、またこちらも、来月の定例会でご説明させていただきます。</p>

	<p>以上です。</p>
教育長	<p>この今の2点、ぷくぷくサンデーコンサートとイングリッシュキャンプについて何かご質問等ありますか。</p> <p>よろしいですか。</p>
委員	<p>東京で海外留学を体験できるものの参加費が2万5000円程度ってなっているのですけれども、例えば、何か就学援助を受けているご家庭だったら免除されるとか措置はあるのですか。</p>
事務局	<p>それは募集要項の方に、そういった方はお申し出くださいというように書かせていただきます。</p> <p>あとこの2万5000円でございますが、計算しますと1人当たり、8万円ぐらいかかるものです。</p> <p>3分の1程度というところで2万5000円程度で抑えたいな、と考えております。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p>
教育長	<p>価格設定の方も、いろいろ工夫してくれて、何とか応募してほしいなという願いですよ。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>その他ありますか。</p>
事務局	<p>「大阪府教育推進連盟 冊子について」</p> <p>資料に基づき説明</p>
委員	<p>大阪府教育推進連盟というのは、会員大体500人ぐらいいる組織なんですけども、もともと大阪市・大阪府の小中の校長先生のOBで組織されていて、毎年1回は大阪府教育委員会と教育懇談会を実施しています。大阪の教育を推進してほしいという、我々OBの願いを伝えてるというもので、それだけOBが関心をもって、大阪の子どもたちのことを気にかけてるということ、アピールする一つの組織なんです。</p> <p>今回、課長の方からお話してくれないかということで、僕でよければということで、付け加えをさせていただきます。</p> <p>教育委員会の中でよくお話をさせていただいてることを基本に載せていただきました。</p> <p>で、実は、河南町のパンフレットを配布して、河南町の紹介もさせていただいたのです。</p> <p>意外に皆さん方、河南町のことを知らないのです。</p>

そういうことで、話をさせていただきました。

左側に僕のプロフィールも載っているのですが、もともと大阪市で60歳まで勤めて、そのあと、6年間ですけれども、河南町でいうと学童にあたる大阪市教育振興公社放課後事業部いうところで勤めさせていただきました。大阪市の場合は、いきいき活動という名称で、全校に設置されてまして、参加費は無料なのです。全部大阪市が予算措置をして、放課後事業の実施をやっていました。

その事業部におりまして、主に、運営指導員さんの採用とか、研修とかやらせていただきました。

また、それについて触れる機会があったらご紹介させていただきたいと思います。

まず最初に述べてる教育委員会制度という話も、実は、校長先生のOBもよくご存知ない方がいます。僕もここへ勤めさせていただいて初めて、教育委員会制度ってこんな制度だと初めて分かって、紹介をさせていただきました。

その中で特に教育委員会制度は、かなり大きく変わって、教育委員会組織の中で活性化をしていこうとしています。

だからいろんな点で、住民の意見とか吸い上げられるような仕組みということで、例えば、杉田委員さんであれば保護者代表というかたちで、ここに入って来られたり、あるいは、藤原委員さんなんかは会社の経営者とか、いろんな立場で、あるいは、社会教育の代表ということで入っておられるということで、そういう説明もさせていただきました。

1枚めくっていただいた25ページのいじめのところにある教育委員会が第三者委員会の役割を担っていくことが重要って、実は書いたのは、いじめ問題が起こって重大事態が起こった場合には、第三者委員会を立ち上げなさいというようなことが書いてて、僕の私見が入ってるのですが、もともと教育委員会というのは、第三者委員会の機能があるのに、いじめ問題がいろんなところで起こっているのかかわらず、ひどいところなんかは、教育委員会が第三者委員会を立ち上げて、それでも駄目だということで、市長部局とかですね、直属で第三者委員会を再度立ち上げてやってるというようなニュースが入りますね。

子どもの問題とか、あるいは、いろいろなトラブルについて何かあったときには、教育委員も入って、どういうかたちでこれを解決したらいいのかとか、こういう方向でいかなければならないということを考える、そのための教育委員会制度だなというふうにならざるを得ないと思っておいたのです。

だから、第三者委員会を頑張るのはもちろん大事なことですけれども、それ以前に教育委員会そのものが、教育委員も含めてですけれども、頑張らなければならないのではないかというような感じを受けとめて、話をさせていただきました。

だから、本当は第三者委員会を立ち上げないで、何かあった時には我々教育委員会のレベルで、皆さんと手を取って解決していくのが目指す方向で、何で

も第三者委員会立ち上げなければいけないとか、そういう方向にならないように、努力していかなければならないという思いで書かせていただきました。

だから、教育委員会が第三者委員会であるというような捉え方じゃなしに、そういう機能をもっているということをもっと発揮しなければならないということを書かせていただきましたので、誤解のないように、お願いしたいと思います。

不登校のことについては、定例会でも、お話をさせていただいてることで、特に、河南町で近つ飛鳥小学校で授業を見せていただいたときに、中学校の先生が小学校に来て、英語やっておられるとか、やっぱりそういう小中の連携の中で子どもたちを何とかしていこうという動きがあるというのは、非常にすぐれているということで、そこも少し紹介させていただいたところです。

それから、25ページの右上に3打数1安打ってという話があるのですが、これは後で触れていきたいなと思います。

以前も杉田委員も言っておられましたけども、学校に来れない子の学力保障をどうするかということが、とても大きな課題だと思っています。

不登校になるその一歩手前で、どう踏ん張るかということが、我々に課せられた問題かなと思っています。

一旦、小学校、中学校で不登校になったら、なかなか復活が、難しいのです。

だから、以前もお話したように、何とか小学校で、中学校になって不登校になったら、その時に何とか、食い止めてあげて欲しいというのが、非常に大きな願いです。

そういう意味で不登校についてはね、僕自身が若干こだわりがあって。

この前永岡文科大臣も不登校児童についての学力保障を真剣に考えていかなければならないというコメントを出しているのは、僕はいいことだと思っています。

居場所づくりで、第一の居場所が家庭なのです。第二の居場所が学校。第三の居場所づくりというのが、かなり積極的に進められて、フリースクールとか、あるいは、子ども食堂とか、要するに子どもが自由に集えて、自分の居場所を確保していく、というようなことです。

高校生とかが、そういうところに行って、自分の将来の道を見つけたり、自分の生き方を見つけていこうという動きは全国的にできているけども、それは小中である程度人格形成ができて自己が確立してる。まだ小学校のレベルで不登校になったら、なかなか難しいです。

大阪市では、中学校も含めて約5ヶ所で支援センターのような組織づくりをして、不登校の子どもを何とか受け入れようということをやっているのですが、稼働率が、実は10%ぐらいしか機能していないという現状があって、そういう支援センターにも、なかなか子どもが行けていない実情があるということも事実なのです。

だから、そういう意味では、僕はその不登校の子どもに対する学力保障はとても大事と思うし、そうならないようにしっかり予防していくことが大切。子

どもたちの集団の中で、助かる子もたくさんいるのです。一つ間違えば不登校になる。でも、周りの集団の友達のおかげとか、あるいは、先生方の関わりで何とか乗り越えてる子もたくさんいるし、いろんな事例も僕も知っています。

だから、本当に不登校になったときに、学力をつけてあげないといけないという思いです。

学力保障でいちばん進んだのが、支援を要する子どもさんです。僕がまだ30代の頃は、長居小学校は1600人ぐらいいたのですけれども、養護学級が1つしかなかった。子ども1人か2人、先生見ておられて、他はほとんど教室の中で我々が見ていたのです。

だから、そのことを考えると、特別支援教育がものすごく進んだと思います。

いちばん進んだのは府立高校で、特別支援学級を設定して、知的障がいの子や発達障がいの子を受け入れているという高校の募集要項を見たら、4人とか5人しかありませんけども、本来は、特別支援学校の高等部に行くのを普通高校でも受けるということは、一般の子と同じように生活できるのが、学習を受けるのが当然というような受けとめ方もあって、そういう意味では、非常に教育が進んできている。

次に進めなければいけないのは、不登校の子どもに対する教育。

よくグリ下の問題とか、ト一横の問題とか話題になってます。難波のグリコの看板の下に集まって、その中には高校生はおろか中学生まで入って来て、夜な夜な徘徊してるっていうことがあったりする。

実は、あの子たちは、ひょっとしたら不登校になってるかもしれないという気がするんです。

だから、不登校の問題については、これは本当に真剣に考えていかなければいけない。地域との触れ合いの中でやろうという運動会があって、そういう運動会に青指の方とか、体協の方をお願いして、そういう引きこもりの子とかに関わっていただいて、ちょっとずつそういうところに地域の力で夏祭りに出たりとか、復活できたというような経験はあります。

そういう地域の力とかを借りて、関わっていくってというような組織的な関わりも経験をしていますので、不登校について入れさせていただきました。

次は、デジタル機器と問題ということで、25ページに書かせていただきますけれども、いちばんの問題は、考えなくても答えを出してくれるということ。

今度、教科書採択がまたあるのですけども、多分、今度の教科書採択ではデジタル化が、かなり大きな話題になるのではないかと。

いろいろ本を読んだり、新聞見たら、やっぱり紙ベースが主体で、デジタルが従という考え方が、多分、主流を占めるのではないかと思います。

しかし、今の子どもたちの状況から見たら、もうスマートフォンを取り上げることはできない。デジタルもこれから進んでいく。

だから、学校教育が頑張らなければならない。

デジタルなしでも、紙ベースでもしっかり勉強できる手だてをしなければならぬと思います。

だから、そこに書いてあるとおりに、昨年度もここで問題提起させていただいたデジタルの光と影。フェイクニュースだとか、いろんな問題も上がってきています。そういうメディアリテラシーを子どもたちに、しっかりつけることが、これから大事という話も、ここでやらせていただいたのです。

読売に出たのですけども、深く考えて問題を解くことが減ったというのが、コロナから3年経って増えているのです。

例えば、高校生なんかは、以前までしっかり勉強してたのが、深く考えることが減ったというのが50%近くになってきて、リモートは確かに悪くはないけども、勉強する力が減ってきたのではないかというのが、調査でも出てるから、なるほどと思いました。

だから、これからの課題で、デジタルについては、本当にしっかり見ていかなければならないと思って、書かせていただきました。

危機管理については、これは高井委員からですね、資料をいただいた時に、ここでも話し合いをさせていただいたんですけども、附属池田小学校から20年を機会に研修を受けられたのを、河南町でしっかり受けとめてやっていますという話です。

僕もこの時のことをよく知ってるのですけども、対応が遅れて、命落としている子どもさんがいるということ聞いてびっくりした。僕もこれを紹介させていただいた時に、ああそうですかという先生も結構おられて、だから空白の何分間、7分間、8分間でしたかね。その時間の問題提起を少しお話させていただいたら、ものすごく関心をもたれた。

だから、いかに初期対応が大事かということ、この時に皆さん方とも共有させていただきました。

それから、このピークエンドの話は、私たちの脳の機能とかいうのは、いちばん最後の印象が、すべてを網羅するというような考え方なのです。

そこに書いてあるように、あるホテルで朝食をすごく豪華にした。すると、リピート客が増えてきた。

要するに、あそこのホテルの評価として食事がよかったというよりも、朝ご飯はおいしかったということで、そこでホテル出たら、ホテルの印象がものすごく上がった。

別にホテルだけじゃなしに、パワーポイントで講演する時に、最後で何を打つかによってですね、その講演がよかったかどうか、勝負になるというような話もされておられて、僕は実はこれを最後に持ってきたのです。

それは、実は、学校にも大事なことで、幼稚園でも褒めたりとか、子どもたちに終わりの会でも、「よう頑張ったね、明日も元気に来てね。」ということであれば、子どもたちのモチベーションが上がります。

「お前、今日、何したんや。もう喧嘩したらあかんで。」とか、「もう今日はあかん。悪い事したから漢字10回書いておいで。」とか、そういうマイナス事項で入ってしまうと、子どもたちのモチベーションは下がるということで、ちょっと話をさせていただいたのです。

子どもたちが帰るときに、いい気持ちで学校を出れるようにすることが、ピークエンドの法則と違うかなあということで話をさせていただきました。

それから、スマートフォンで「確認の恐怖」というのを書いてるところがあるのです。

大学生で、試験の時に電源を切ったスマートフォンを横に置いたグループとスマホを完全に置かないというグループで実験してみたのです。

そしたら、スマホが置いてある、もちろん電源は切っているのですが、スマートフォンを置いてある大学生の方が学力が落ちたということです。

なぜかっていうと、スマートフォンが置いてるだけで、使えないけど、使えないために集中できなくて「確認の恐怖」、つまり、見たいけど見られないというようなことになってしまっ、集中できないという結果であった。

電源を切ってるのに、そんな結果が出てきてるということで、スマートフォンはよっぽど気をつけないと、子どもたちがそれに頼り切ってしまうのではないかなという結果がある。

若い人でも、もう夜寝るまでスマートフォンから離れられないで、夜中ずっと見てるとか、そういう実態もテレビでも時々やっています。

だから、スマートフォンを使えば非常に有効だけれども、一つ間違えば人間の私達の脳にも、そういう「確認の恐怖」というようなかたちで影響を与えてきてるっていうことも、お話をさせていただいております。

最後ね、懇談会がありまして、話をさせていただいて、大先輩の方々とか、50人ぐらいおられたのですが、言っていたのが、河南町ええとこやなあ、僕らもよかったらっぺん住みたいなあという方が、お世辞だと思えますけども、何人かおられました。

二つ目は、もう一回教えたいなあ、授業したいなあ、という方が結構おられました。それを聞いて、お話させてもらってよかったなあと感じました。

校長先生、どのようにしたら居心地のいいクラスができるのですか、という質問が時々先生からありました。

僕は、「まず初めに、子どもたちとの人間関係をいかに作っていくかが勝負と違うかな。そのために、子どもたちと人間関係を作るにはどうしたらいいか。それぞれの先生方で考えて、いろんな取り組み方があるので、頑張っ、ってほしい。」と言いました。

自分のクラスが居心地よかったかなあと、居心地のいい学級ができたのかなあというようなことを反省してやっ、ていこうということで、それがここに書いてある3打数1安打なのです。

すべての子どもたちの人間関係を構築するのは難しいんです。

というのは、関わる子は、結構関わるのですが、関わらない子も結構いるのです。

例えば、静かで、俗に言う手のかからない子なんかは、人間関係を結ぶ時、て、あまりないのですが、ここに書いてある3打数1安打というのは、例えば、A君に3回関わって、1回ヒットを打ったら、もうそれで、その子と1

年間はOKなのです。

例えば、非常に水泳の得意な子がいて、水泳のシーズンが始まった。A君は水泳とても上手。だから、A君、悪いけど、ちょっとクロールの見本を見せてくれるかって言ったら、そしたらA君が、頑張って泳いで、「すばらしかったやろ。どこが素晴らしいかちょっと教えてごらん、言うてごらん。」とか言うと、子どもたちがすごいついて皆拍手する。

そしたら、担任とA君の関係は、先生は僕を指名してくれて、僕がみんなから承認されて、子どもたちで認められることがいちばん嬉しい。褒められることよりも認められること。

だから、それで、その子との関係は、もう何があっても、絶対に1年間は僕は繋がっていったし、繋がっていけると思う。

だから、それをすべての子にね、1年間で3回ですよ、3回関わって、1回ヒット打ったらいいという。

だから、1学期の間に全部ヒット打てとかではないのですけども、何らかのかたちで人間関係を結ぶ、そういう努力をしていかなければならないということは、要は、勉強以外でも、すべての面で子どもたちが活躍できるところを取り上げて、みんなで承認して、褒めてあげることが、とても大事な作業で、だからそこは、それぞれの担任の先生方に、やっぱり3打数1安打、3割3分3厘やったら、野球の選手やったらすごい打者だから、3割打者をめざして、1年間頑張ろうということで、先生方とよく話をしました。

そのための手だてをやっぱりどうするかいうのについては、その子のことをよく知らないとできないので。

だから、よく家庭訪問なんかも、先生、やめたらどうですかと言う。担任が結構忙しいし。

でもね、僕は、家庭訪問は何にも普通に行ったらね、お子さん、様子どうですか、家ではどうですか、何頑張ってますかとかね、そういう話に終わるのですけども、僕は職員に言ったのは、おうちの方に会って、子どもにアプローチの仕方を教えてもらいなさいと。

その子について人間関係作りたかったら、どういう子どもなのか、どういうことが得意なのか、どういうふうにしたら、この子をレベルアップできるのかっていうところを知る。そこが、僕は家庭訪問でねらいたと思います。

大事なものは、子どもに対するアプローチの仕方をしっかり担任が把握する。その時にいちばんよくご存知なのはおうちの方ということは、よく話をしたのです。

だから、おうちの方の話はしっかり聞いて、それを生かして子どもと人間関係をつないでいくことが大事ということ、よく話をさせていただきました。

だから、それがこの3打数1安打の、別に3打数1安打以外でも何でもいいのですけども、要は、そういうことで、子どもの関わり方を一つの目標を設定して、取り組んでいこうということ。

でもね、すべてがすべてうまいこといくことがなかなか難しい。現実、毎日、

	<p>先生も忙しい。</p> <p>本当に先生方が忙しい中で、子どもの関わりをするというのは非常に厳しい。昔はまだ土曜日があったので、土曜日、昼から遊びに子どもたちが来て、一緒にしゃべったりですね、そういう子どもと先生が向き合う時間っていう、触れ合う時間があったが、今の状態ではなかなか取りにくいのではないかと。</p> <p>だから、そういう意味で、子どもとの触れ合い時間を、1週間のコマの中にどこか一つとって、子どもと思いきり遊んでやるとか、一緒に何か関わるような時間を見つけてやって欲しい。教科の勉強よりも、時には大事なことがあるのではないかと感じたりしています。</p> <p>と言いながら、先生方も随分忙しくなっていて、教育のスリム化もやっていけないといけない。子どもたちをしっかりと見ないと、不登校になったりすることもある。</p> <p>でも、僕の経験では、教師冥利というのがたくさんあったので、ぜひとも、たくさん先生になってほしいなと思っています。</p> <p>定期的に僕 50 の時とか 60 の時とか、古希のときにお祝ってくれる 1 人が、50 になって、岐阜大の医学部に合格したというような子もいるのです。</p> <p>そういうこともね、一生懸命頑張って関わった甲斐があったなあと感じます。</p> <p>だから、苦しいばかりじゃなしに、子どもとの関わりでたくさんお土産もあるということを先生方にね、伝えてほしいな。</p> <p>提言とプラスアルファさせていただいて、自分の思いも伝えさせていただきました。</p>
教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>こういうかたちで、やっていただいたということを我々も知って、教育委員会の場でも、共有して、資料の交換だけでなく、一言添えていただいたらありがたいなと思ったのですが、委員の思いも聞いてよかったですと思います。</p> <p>今の話で何か、この件について聞いておきたいことがありますか。不登校の考え方であるとか、様々ご発言をいただいていますし、そのことを踏まえて、河南町の子どもたちにとっても、前向きにより良くしていく一つの機会になればなと思っています。</p> <p>よろしいですか。</p>
委員	<p>すごくいい話だと思いました。すべて当てはまる。</p> <p>先生たち、今現場で働いてる先生たちにどうにかして伝えてあげられる方法はないのかなと考えながら聞いていました。</p>
委員	<p>そうですね。</p> <p>総合教育会議の時に、前の新田教育長のときと思うのですが、あまりにも先生のやる内容が多すぎ、その時に出した資料が、近つ飛鳥小とかなん桜小の教育指導の計画、全体計画これぐらいの冊子になったものを持ってきて。</p>

	<p>実は、これだけ近づても桜でもやっておられます。見たら、毎年増えていくのです。なぜかという、次々、新しく来て足す分がある。</p>
教育長	<p>そういう部分もないことはないですね。</p>
委員	<p>減ることないですね。</p>
教育長	<p>減るといふか、増やすからにはやっぱり限りがあるので、減らすという視点もゼロではない。</p>
委員	<p>でも、学校って何もかも背負ってるじゃないですか。税務署から租税教育を してくださいとか防災教育はもちろん、様々なところから学校にお願いするの がいちばん浸透しやすい。対象が子どもたちだから。 学校は何でも受け入れて、そこへまた地域のこととかいろいろで、スリム化 していかないといけない。 だから、こういう大きな冊子が、先生方の負担が少しでも減って、あの冊子 作るだけでも、相当時間がかかりますね。</p>
教育長	<p>そうですね。</p>
委員	<p>先ほど申し上げたように、子どもと関わる、向き合う時間が忙しくても、子 どもに関わることをやったら先生方は結構 OK だと。 でも、子ども以外に関わるのが非常に多くなってきている。子どもと関わ る時間が減ってくると、トラブルが起こる。トラブルが起こったら問題対応し なければいけない。だったら、余計に先生方は時間をそこに費やして、ものす ごく疲労感が溜まっていくという。 でね、途中で先生方が心病んで休まれるとかね、特に、5月病、5月の鯉のぼ りが終わったぐらいから先生が休まれるという経験、僕もしてますので、だか ら、せっかく新任教員で、すばらしい先生をめざそうと思って、すごく学力も 力もあるし、勉強もいっぱいされてこられたのが、子どもとの関係、親との関 係がうまくいかなくて、退職される先生が非常に申し訳なかったなという経験 もあります。 だから、先生方のそういう仕事を何とか提言して、子どもたちに関われる時 間は少しでも多くできる方法はないかな。 昔は、もうちょっと時間があつたのではないかなというな感じを僕は受けて いました。</p>
教育長	<p>今、先生がそういうふう動けない、というところは、整理していくことは 絶対大事だし、おっしゃったように膨らんでいくだけでは、もうこれは身が もたないので、当然スリム化は必要だし、増やすからには減らす、統合してい</p>

く。我々がそれを具体的に考えていって、さっき委員もおっしゃったように、こういった議論を教育委員会ではしてるんだ、ということはどういうふうにして現場の先生にも伝えていくか。現場の先生は現場の先生で、スリム化できることとかをやっていくこと。これからの教育には課題がありますが、それやっていくことが、改めて大事な、具体的にしていかなければならないということ、西川委員のいろんな熱い思いを聞かせていただいて、僕はそう感じました。

ありがとうございます。本当に。

他どうですか。よろしいですか。

本当にありがとうございました。

それでは他、特に委員の方々から何かないですか。

委員

今回、学校と園に施設訪問に行かせていただいてすごくよかったなと思っています。それぞれの学校の様子も見られたし、こども園は今まで行ったことなかったもので、河南町の保育があんなに充実したものであるってことに気づかせてもらえたし、学校の先生方が本当に頑張っておられる姿を生で見られていい機会になったなと思っています。

これはやはりどうにかしてフィードバックしたい。ただ単に私が何かこう偉そうに見に行ったわけでも何でもなくて、やはり生の教育を見させてもらう。それがどうにかしてこうよくなるように、この会議をもっているんだっていうことを伝えてもらえたらなって思います。

子どもたちと向き合っておられる先生方の声掛けもすごく素晴らしかったし、良いところを褒めようっていうところで動いているというのが良かったのと、今後は、こども園同士の交流というか、子ども同士の交流ももちろんだけど、先生方が交流することで、両方の園が活性化する。

近つと桜と2校しかないから、小学校の場合は先生方が異動で交流されているのでいいのですが、何かそういうことがあって、もっといい教育になっていったらいいなと思います。

毎年、私はこの春に行ったらいいかなと思います。大変だけどね。調整とかも。でも、見ることで様子もよくわかるし、先生方にフィードバックっていうか、「よかったよ」、「頑張っておられてありがとうございます」ってことを伝えたいなと思いました。

また、研究事業とか見せてもらえたら、それはそれで学力向上についてということでは、また見せてもらえたらいいなと思っています。

委員

前回、研究事業で見せていただくよりも幅広く見られましたね。

研究授業の時でも、時間いただいて、お話させていただいたりして、それもよかったですけど。

子どもたちの生の様子が、よくわかってよかったです。

<p>委員</p>	<p>僕も、今日、見せていただいて、中川教育長と一回授業したくなりませんかって、話をしていたのですけど。</p> <p>やっぱりそういう雰囲気ってとても大事で、ここやったら教えるの嫌やなあって、そうなるよりも、やっぱりここやったらやってみたいとかですね、そういう率直な感想が言えたらよかったかなと思っています。</p> <p>今の時期すごくしんどくなっている新任の教員が多いという話をよく聞くついでに、河南町で新採になった先生方が頑張っておられるんだなっていうのもよく見られたし、若い先生方をどうサポートしていくかっていうことも、今後、もちろん校内でもそうだけれども、指導主事の先生からも声かけてもらうとか、いいところをうんと伝えてあげるとか、今日のほめ育をぜひ広めていけたらいいなとおもいます。</p>
<p>委員</p>	<p>私もいい時間を過ごさせてもらったなと思っています、西川委員がおっしゃったみたいに、研究授業を見に行くのと全然違う。本当に素の子どもや先生の様子っていうのを感じさせてもらえたのはすごくうれしかったですし、私も本当にキャリアは少ないのですけど、教員をさせていただいていた時期もあったので、教育委員会のことをもっと先生方にも身近に感じてもらいたい。</p> <p>高井委員がおっしゃるみたいに、年に1回、決まって訪問させてもらう機会があるとすごくいい。チーム河南じゃないですけども、自分もその一員として一緒にできることがいろいろあったらいいなと思いながら過ごさせてもらいました。</p>
<p>教育長</p>	<p>そう感じていただくのはものすごく大事だし、よかったと思っています。なので、今回の計画を実施したことがよかったし、今もあったように、これは、例年、定例的にという位置付けはあっていいと思っています。</p> <p>この間、ちょうど年度初めなので、校長先生方とも、今日も大きな流れの話の中で、今年の大綱があって、指針があって、それをもとに学校長が学校教育を決めるというその時期に、いつも教育長と校長一人ひとりと話をする場があるのですね。</p> <p>1人の校長先生が「やっぱりよかった。」って言ってってくれていました。</p> <p>今日のご意見も、ぜひ次回の校長会、あるいは、教頭会で責任をもって伝えたいと思っています。</p> <p>なので、チーム河南と言いますか、教育委員さん、そして、我々も含めて、教育を良くしようと思っている気持ちをアピールしていきたいと思っていますし、そのために行かせていただいたんだと。そんなふうな話になってよかったと思っています。</p> <p>先生同士の交流、これは4月に、今年の見直しの中で、こども園と小学校の連携についてお話させていただいたと思いますが、中村こども園と石川こども園が人事交流するってなかなか難しい部分があります。そこで、小一プロブ</p>

	<p>レムの問題とかもあるので、小学校の先生とこども園の先生との交流を今年メインにおいて、こども 1 ばん課の課長と指導主事にも言って、とにかく現実に行いたいと思っています。</p> <p>先生同士の交流でどう思ったのかどう感じたのか、幼稚園で幼児教育がここまでやっているのに、小学校に上がったらまたご破算みたいにゼロスタートしているっていうようなことをクリアにできる。声かけも変わってくる。</p> <p>逆に、こども園の先生に小学校の 1 年生、2 年生の授業を見てもらったりすると、自分たちのやっていることがこう繋がっていくということが直に見える。見るだけじゃなくて、忙しいけど、必ず話し合いの場を持ってもらうということが大事であって、それを続けていくことが、よりよりチームという意味合いで、河南町で子どもを育てているという意味合いを持てるのじゃないかなど。それを一つの大きな目玉にしているので、どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>では、他、よろしいでしょうか。</p> <p>今年度は令和 6 年度の小学校教科書の採択を行うという年であります。近日中に、各自宅に教科書、令和 6 年度版の小学校の教科書を持っていきたいと思っていますので、またご予定よろしくをお願いします。</p> <p>各校園の教育計画、保育計画につきましても、そのタイミングで持っていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>わかりました。</p> <p>他、よろしいですか。</p>
教育長	<p>以上をもちまして本日の日程等はすべて議了いたしましたので、これをもって 5 月の教育委員会定例会を閉会いたします。</p> <p>次回は、6 月 29 日（木）14 時から定例会を開催いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>

令和 年 月 日

教育長名

署名委員名